

【資料4】

中山間地域ふるさと事業 について

埼玉県農林部
農業ビジネス支援課

中山間地域ふるさと事業の背景

現 状

○中山間地域の高齢化の進行

高齢化率（65歳以上人口割合）（令和2年）

中山間地域：38.8%／県全体：26.3%

○人口減少の進行

人口増減率（平成27年→令和2年）

中山間地域：△2.8%／県全体：+1.1%

（令和2年国勢調査）

問 題

○高齢化、人口減少により地域コミュニティの維持が困難

○営農の継続困難、伝統文化の衰退、耕作放棄地の増加等が懸念

これらの中山間地域が抱える問題へ対応するために



「中山間地域ふるさと事業」を実施

埼玉県では、地域振興立法3法指定地域及び農林統計上の中間農業地域・山間農業地域を「中山間地域」としている。（対象：17市町村48地域）

中山間地域ふるさと事業とは

「ふるさと水と土基金」事業

(中山間ふるさと・水と土保全対策事業)

- ◆中山間地域が有する多面的機能の発揮と、地域住民活動の活性化を目的とする。
- ◆中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱（農林水産省）に基づき、都道府県に基金を設置。

「棚田基金」事業

(中山間ふるさと・水と土保全推進事業)

- ◆棚田地域の農地等の保全・利活用に係る活動の活性化を目的とする。
- ◆中山間ふるさと・水と土保全推進事業実施要綱（農林水産省）に基づき、都道府県に基金を設置。

- ◆事業主体は都道府県。
- ◆事業対象地域は特定農山村法、山村振興法、過疎法指定地域及び農林統計上の中間農業地域・山間農業地域（17市町村48地域）
- ◆埼玉県の当初の基金積立額は6億9千万円
- ◆運用益と基金を取り崩して事業費としている。令和6年度当初予算額は16,413千円（2事業の合計）

事業の構成

1 調査研究事業 令和6年度予算額：12,347千円

- ・地域住民活動の活性化に係るワークショップ等の実施
- ・大学生等の外部の力を活用して集落の活性化を図る取組を実施
- ・集落営農を確立するための新たな生産技術や鳥獣害対策の調査研究

2 研修事業 令和6年度予算額：340千円

- ・地域活性化に必要なリーダーとなる人材を育成するための研修会の実施

3 啓発推進事業 令和6年度予算額：1,157千円

- ・中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動の実施

(令和6年度予算額 : 4,500千円)

コンサルタント等による支援①

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

本庄市（R5～） 日本コンサルタントシステム株式会社

- ・昨年度のツアーの経験を活かし本庄市里山の魅力を巡るツアーを企画・実行、対象地域の魅力を発信するためのマルシェを開催。
- ・対象地域の散策マップを作成。
- ・委託事業終了後も自走していける住民活動を目指す。



長瀬町（R6～） 株式会社第一プロGRESS

- ・現地で栽培される農産物や特産品、観光名所等の地域資源を再発掘するとともに、長瀬町ではの地域資源を生かした地域活性化の方策を検討する。
- ・市民農園「ふるさと農園」を拠点にしつつ、長瀬町の観光名所などの地域資源を結びつけながら、農業体験や観光体験など都市間交流へ繋げる交流事業の実施の検討を進める。



コンサルタント等による支援②

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

秩父地域（R6～）埼玉県産いちごを活用した地域活性化 株式会社スキーマ

- ・ 本県中山間の有力な地域資源である県産いちごを活用し、地域活動の活性化、産地への誘客促進などを図り、中山間地域の活性化を図る。
- ・ いちごに関心のある学生や地域住民等の参加者などが参加するワークショップ「埼玉いちご大学」を通じて、地域と連携したいちご商品の開発、商品PR等を実施する。
- ・ 10月15日 第1回ワークショップ開催（いちご農園、行政関係者等が参加）
- ・ 12月7日 第2回ワークショップ開催（いちご農園、地元企業、市議会議員、行政関係者等が参加）
- ・ 1月30日 第3回ワークショップ開催（地元高校生、市議会議員が参加）
- ・ 3月1～2日 横瀬町での台湾イベントにて商品のお披露目（予定）



第2回ワークショップの様子



「いちご大学」ポスター

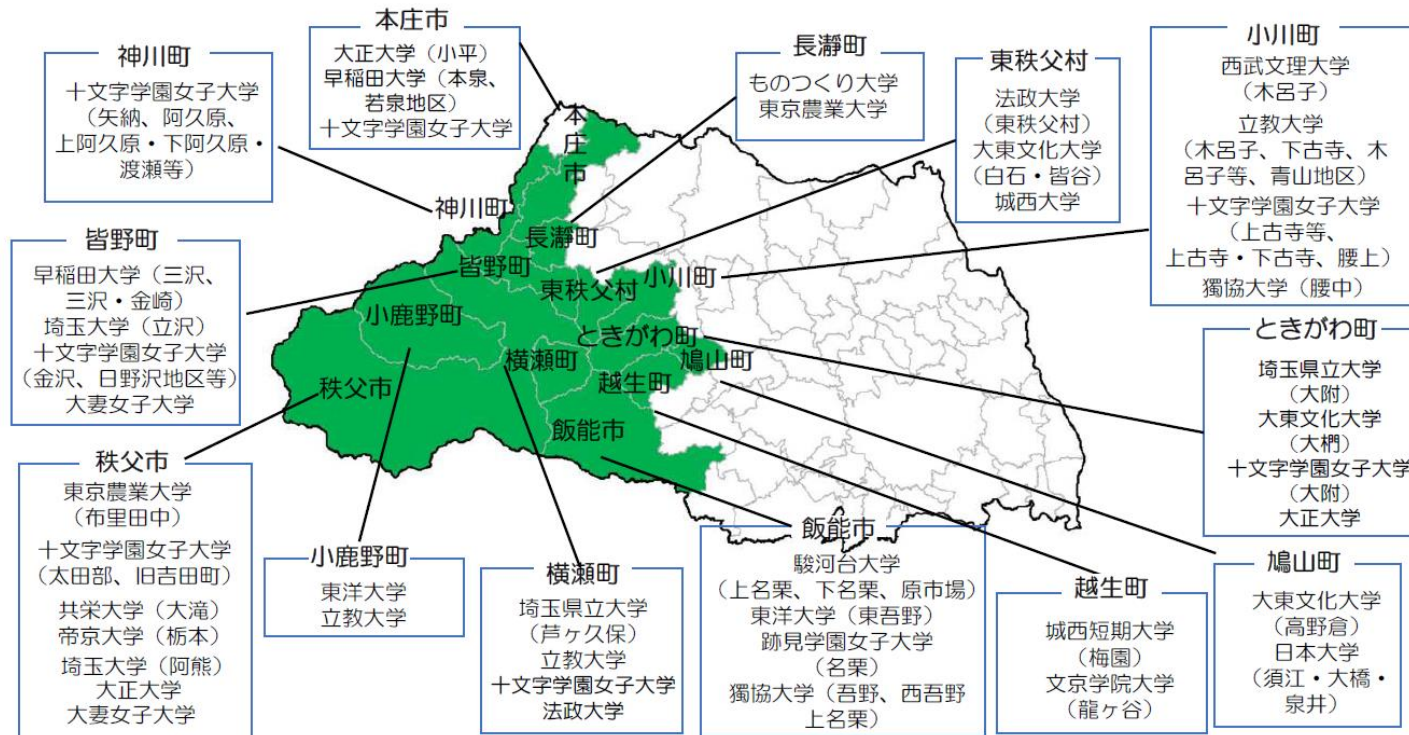
ふるさと支援隊による支援

大学に委託して実施
1地区あたり50万円（継続地区は40万円）を上限とする。

大学生等の持つ新しい視点や行動力、専門技術・知識など「外からの力」を活用することによって、集落の活性化を図る。

平成22年度から延べ56支援隊が活動している。

（令和6年度予算額：4,700千円）



令和6年度の実績
計8支援隊が活動
（内訳）

継続 6支援隊
新規 2支援隊

【R6活動テーマ例】

- ・ 東秩父村の観光・地域資源の再発見と発信（城西大学・東秩父村）
- ・ 飯能の里山資源を活用したアウトドア・スポーツ・ツーリズムへの挑戦（駿河台大学）
- ・ 若者Z世代が好む柑橘製品の開発（十文字学園女子大学・ときがわ町）

県の研究機関による支援

1 概 要

中山間地域において、地域住民活動の活性化に資することを目的に、集落営農を確立するための調査研究を県研究機関が実施する。

県農業技術研究センターでは「鳥獣害対策」、県茶業研究所では「お茶の生産技術」に関する研究を実施している。

2 令和6年度実施状況

(1)野生獣の農作物被害防止総合対策の推進

- ・サルの雌成獣に発信器を装着し、行動域・移動ルート等を調査（サル群の行動把握と地図化）
- ・捕獲檻に対する野生動物の行動を解析し、効率的な捕獲地点の選定と捕獲実証を実施
- ・被害防止対策の検証（侵入防止柵の効果確認） など

(2) お茶の生産技術の確立（秩父地域における茶の栽培加工技術の向上）

- ・微生物資材による土壌改良の実証試験
- ・緑茶の製茶指導、紅茶の仕上げ加工指導及び紅茶求評会の開催
- ・ほうじ茶の製造調査や官能評価 など

ふるさとリーダー研修

中山間地域の活性化の推進及び助言等を行う人材を育成する。

(令和6年度実績)

第1回：都市農山村交流実践研修会

- ・開催日：令和6年8月29日(木) ・参加人数：45名(農業者、地域おこし協力隊等)
- ・テーマ：「有機農業を通じた地域活性化」～作る人も食べる人も心が豊かになる小川町の暮らし～
- ・講師：①小川町移住サポートセンター 八田さと子氏
②霜里農場 金子宗郎氏
③小川町地域おこし協力隊 泉地春香氏
- ・内容：有機農業を通じた地域資源の活用や関係人口創出などの方法に係る講演、地域活性化のための方策について考えを深めるための情報交流会を開催。



第2回：都市農山村交流実践研修会

- ・開催日：令和6年11月27日(水) ・参加人数：12名(大学、行政関係者等)
- ・テーマ：「ゆずでつなぐ地域の輪～クラフトジュース誕生秘話～」
- ・講師：ときがわブルワリー 小堀 利郎氏
- ・内容：地域産原料の加工に特化した飲料製造を通じて、地域の農家の所得向上、特産品の開発等を多く手掛ける講師による地域資源の活用や仲間づくりの手法などに関する講演及び意見交換会を開催。



中山間地域における取組の広報

中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動を実施する。（令和6年度予算額：1,157千円）

令和6年度中山間ふるさと啓発推進事業（業務委託：秩父観光農林業協会）

中山間地域の活性化に向け、地域の農業者や農業関連団体との協働により、地域の特産農産物や農業の取組、多面的機能に関する広域的な広報活動を実施。

秩父鉄道SLくんだり「熊谷駅」から「長瀨駅」間において、乗客に対し、試食用農産物や中山間地域啓発用のチラシ、観光農園パンフレットを配布

- (1) ブルーベリー（令和6年6月22日（土））
対象者数：秩父鉄道SL乗客244名
- (2) シャインマスカット（令和6年9月14日（土））
対象者数：秩父鉄道SL乗客228名
- (3) いちご（令和7年2月～3月上旬予定）
所沢駅でのPRを予定



ブルーベリーPRの様子

その他

- ・ポータルサイト「グリーン・ツーリズム埼玉」での中山間地域の観光農園やイベント等の情報発信
- ・イベントでの啓発資料配布・パネル展示
- ・情報誌の配布



中山間地域ふるさと事業

中山間ふるさと・水と土保全推進事業

(棚田基金)

棚田基金の構成

1 保全ネットワーク推進事業

- ・ 保全活動への都市住民等の参加推進を図るために行う普及・啓発及び情報の収集・提供

2 保全活動推進事業

- ・ 保全活動を行おうとする住民組織の活動計画等の作成

3 保全活動支援事業

- ・ 住民組織が行う保全活動に要した経費に助成

※地域振興関連施策（中山間地域等直接支払等）と連携

棚田基金を活用した取組

(令和6年度予算額：419千円)

棚田地域に関する情報を発信し、都市住民も交えた地域住民活動を推進。

＜令和6年度の活動＞

西武鉄道や横瀬町観光協会と連携し、横瀬町でのハイキングイベントやあしがくぼ氷柱イベントにおいて、寺坂棚田で生産された棚田米や棚田めぐりガイドを配布し、都市住民に向け情報発信を行った。



11/19 横瀬町（札所6番ト雲寺）
（横瀬町ウォーキングイベント）



イベントには、多くの観光客が訪れ、「寺坂棚田にも寄りたいと思う。」「棚田で作ったお米がもらえるなんて嬉しい」などの声が聞かれた。



1/18横瀬町（道の駅あしがくぼ）
（あしがくぼ氷柱イベント）

中山間地域ふるさと事業計画

達成すべき目標		指標	目標値	年度ごとの目標					合計
				R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
①	企業や大学生と連携した中山間地域への支援 (コンサルタントによる支援・中山間ふるさと支援隊)	新規取組支援地域数(地区)	12地区 (累積値)	0 (0)	3 (2)	3 (8)	3 (4)	3 (3)	17地区 (累積値)
②	地域住民活動の活性化に関する研修会の開催	研修会開催(回)	1回/年	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (2)	1 (2)	1.4回/年 (平均値)
③	中山間地域の農業の紹介や多面的機能の理解増進のための啓発・普及	啓発・普及活動回数(回)	15回 (累積値)	3 (3)	3 (2)	3 (2)	3 (5)	3 (6)	18回 (累積値)
④	棚田地域における住民活動の活性化	活動組織数(団体)	1団体/年	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1団体/年

上段：目標値 下段（ ）赤字：実績値

令和7年度事業の計画

調査研究事業

企業等による支援後も地域で取組が自走できるよう、委託事業者との調整を含めさらなる工夫を検討する。
県農産物への追い風が吹いている機会を活かし、県産いちごを軸とした中山間地域の活性化を図る。

- ・企業による住民活動支援 3地域(新規1地域、長瀬町、県産いちごを活用した中山間活性化)
- ・ふるさと支援隊の活動 11支援隊(新規3支援隊、継続8支援隊)

研修事業

地域活性化を推進するリーダーとなる人材育成に向け、研修対象者を明確化し、研修対象者の需要や時勢に応じたテーマを選定し、年2回開催。

- ・ 第1回(7～8月頃): 中山間地域の農業振興に向け、地域農業の牽引役となる農業者や地域企業、商工会等を対象とし、農商工連携等による優良事例や経営戦略について学ぶ研修会を開催(予定)
- ・ 第2回(11～12月頃): 地域活性化に向けた取組に意欲のある地域住民や行政関係者を対象とし、地域づくりの取組や支援方法について学ぶ研修会を開催(予定)

啓発普及事業

- ・ 中山間地域の農業者や農業関連団体、鉄道会社と連携したイベントでのPRの実施。(年3回以上)
- ・ 中山間地域振興に向けた取組、観光農園などの情報を、イベントやホームページでPRする
- ・ 情報誌の配布を行う(年4回予定)



棚田基金分

横瀬町及び寺坂地区の活動組織と協議し、効果的なPR方法及び住民組織が行う保全活動に寄与する取組を検討する。

- ・ イベントにおける啓発資料、棚田米配布による横瀬町寺坂棚田のPR